



# ジュラシック・ワールド 新たなる支配者

2022年/アメリカ映画  
配給：東宝東和/147分

2022 (令和4) 年10月1日鑑賞

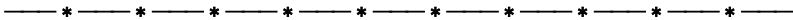
TOHO シネマズ西宮 OS

監督：コリン・トレボロウ  
出演：クリス・プラット/ブ  
ライス・ダラス・ハワ  
ード/サム・ニール/  
ローラ・ダーン/ジェ  
フ・ゴールドブラム/  
ママドゥ・アティエ/  
ディワンダ・ワイズ

## みどころ

スティーブン・スピルバーグ監督が30年前にスタートさせた、恐竜を主人公にした奇想天外な物語はバカ受け！『ジュラシック・パーク』シリーズ、『ジュラシック・ワールド』シリーズと続いたが、ついに本作で大団円！

本作のポイントは、恐竜を集めて研究をしている巨大バイオテクノロジー企業「バイオシン」。その狙いは一体ナニ？3人の科学者たち、主人公になる恐竜の調教師やクローン人間たち、さらにはオールスター勢揃いの恐竜たちがスクリーンいっぱいに躍動する姿を今年の夏の最後に頭をカラッポにして楽しめれば、ああ、幸せ！



◆スティーブン・スピルバーグ監督の話題作の1つである『ジュラシック・パーク』が公開されたのは1993年。今から約30年前だ。その大ヒットを受けて、『ジュラシック・パーク』シリーズが2部作られ、さらにその後には、『ジュラシック・ワールド』シリーズが作られた。本作は、『ジュラシック・ワールド』シリーズ3作目にして、『ジュラシック・パーク』を含めた、シリーズ全体の最終作だ。

私は『ジュラシック・ワールド』(15年)、『シネマ36』237頁)と『ジュラシック・ワールド炎の王国』(『シネマ42未掲載』)を見て、その楽しさを知ったが、はっきり言って同時に、「見飽きた感」もあった。そのため、今夏に長期公開され、大ヒット間違いのないと思われていた本作にも二の足を踏んでいたが、公開終了間近になってやっと鑑賞！2つのシリーズ全体のラスト作の切り口は如何に？

◆『ジュラシック・ワールド』は、私の理解では、白浜にある「ワールドサファリ」の数百倍の大型版。したがって、そのストーリーに説得力とワクワク感を持たせるためには、「ティラノサウルス」をはじめとする、さまざまな人気恐竜がどこかで大量に生息していることが大前提だ。しかして、それを可能にする考古学、生物学、更には、最新のゲノム理論

等を含む学問的な根拠は・・・？

日本で生まれ、後にハリウッドに波及した1954年の日本映画の『ゴジラ』（『シネマ33』258頁）では、ゴジラは原水爆の申し子だったが、『ジュラシック・パーク』と『ジュラシック・ワールド』シリーズの両者に登場する恐竜は、数億年前の、白亜紀に生存していた動物。それがなぜ現在の地球上に生きているの？なぜ彼らの“動物園”である“ジュラシック・パーク”が建設されたの？さらに、『ジュラシック・ワールド炎の王国』に登場した恐竜「ブルー」と、それ（彼？）を調教するオーウェン・グレイディ（クリス・プラット）との友情は？

◆シルベスター・スタローン主演の『ロッキー』シリーズは、第一世代のロッキー、アポロ、ドラゴらの戦いの物語のネタが尽きると、アポロの息子であるクリードの時代へと“世代交代”させてうまくシリーズを続けた。それと同じように（？）、30年にわたる壮大な物語の結末を2時間27分の長尺で締めくくる本作の冒頭では、子供を連れだしたブルーが登場するので、それに注目。

恐竜の保護活動続けるオーウェン・グレイディとクレア・ディアリング（ブライス・ダラス・ハワード）は人里離れた山小屋で静かに暮らしていたが、ある日オーウェンが、子供を連れだしたブルーと再会するところから本作のストーリーが始まっていく。ところが、ある日、何者かによってブルーの子供が誘拐！さらには、ジュラシック・パークの創設に協力したロックウッドの亡き娘から作られたクローンの少女である14歳のメイジー・ロックウッド（イザベラ・サーモン）も誘拐されたから、さあ大変。オーウェンはブルーに「俺が取り戻してやる。」と約束し、クレアと救出に向かったが・・・。

◆『ジュラシック・パーク』シリーズでも、『ジュラシック・ワールド』シリーズでも、当然多くの科学者たちが重要な役割を果たしているが、科学者にも“良い科学者”と“悪い科学者”がいるところがミソ。本作には『ジュラシック・パーク』に出演していた①古植物博士であるエリー・サトラー（ローラ・ダーン）、②数学者で現在はバイオシンの内部で働いているイアン・マルコム（ジェフ・ゴールドブラム）、③古生物学者であるアラン・グラント（サム・ニール）ら三人の博士が登場し大活躍する。すると、ジュラシック・シリーズ最終作たる本作で活躍する“悪い科学者”とは一体だれ？

本作のストーリーのポイントになるのは、世界各地から恐竜を集めて研究をしている巨大バイオテクノロジー企業のバイオシンだが、そこでは一体誰が、どんな研究を、何のために・・・？そんなハラハラドキドキの大活劇は、あなた自身の目でしっかりと！

2022（令和4）年10月10日記